# 第310回 日文研フォーラム

## 三つの「赤い」と二つの「寒い」から、方言を考える
### ―方言と言語類型論の出会い

講師◎鄭 相哲　韓国外国語大学（韓国）教授／日文研 外国人研究員

コメンテーター◎千田俊太郎　京都大学文学研究科 准教授

司会◎佐野真由子　日文研 准教授

2017年5月9日（火）　十四時～十六時（開場十三時四〇分頃）

ハートピア京都3階大会議室

先着一八〇名まで・申込み不要

入場無料

International Research Center for Japanese Studies

The 310th Nichibunken Forum

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター

日文研30周年
NICHIBUNKEN 30TH ANNIVERSARY

第310回

# 日文研フォーラム

## 三つの「赤い」と二つの「寒い」から、方言を考える
### ――方言と言語類型論の出会い

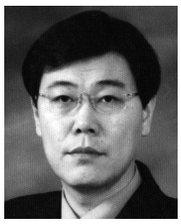
Thinking about Dialect from Three "Reds" and Two "Colds": The Meeting of Dialect and Typology

方言には、いわゆる標準語にはない言葉の分化が見られ、土地の人々の伝統的な感覚や考え方を反映しています。

たとえば、韓国の済州市に残る伝統的な方言には、「赤い」を意味する「벌겅하다／헌다／하염쩌」という三つの語形があります。また一方、日本の熊本県松橋町では「寒い」の意味で、「サンカ／サンカリヨル」という二つの語形が使われています。もっとも、言語の経済性原則という観点からすれば、これらの語はまったく同じことを意味しているのではなく、何らかのルールによって使い分けられているものと予想することができます。

本講演ではこの現象を考察するために、言語類型論の観点をご紹介します。そこから、それぞれの使い分けのルールと特徴が浮き彫りにされるだけではなく、両言語が世界言語の中に位置づけられることをお話ししたいと思います。

講師 **鄭 相哲** 韓国外国語大学（韓国） 教授／日文研 外国人研究員



1986年、韓国外国語大学校東洋語大学日本語専攻卒業。1994年、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了（文学博士）。西京大学校日本語科助教授を経て、現職の韓国外国語大学校日本語通翻訳学科教授。2016年9月より国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。
専門分野は、現代日本語文法論、日韓対照言語学。主要論文に「反語文の情報構造について」（『日本語文学』日本語文学会、2017）、「"-n kes-ita" のテキスト機能と意味」（『テキスト言語学』韓国テキスト言語学会、2016）、「言語類型論的な対照研究のケーススタディ」（『日本言語文化』韓国日本言語文化学会、2012）などがある。

コメンテーター **千田 俊太郎** 京都大学文学研究科 准教授

2006年3月京都大学大学院にて博士号取得。大阪外国語大学非常勤講師、京都大学非常勤講師、熊本大学文学部准教授を経て2013年より現職。
専門分野は、シンブー諸語記述、朝鮮語記述。主要論文に「ドム語の移動表現」（松本曜編『移動表現の類型論』、2017）、「東シンブー諸語の所有者人称接尾辞について」（『ありあけ』15号、2016）、「基底の音節構造: 朝鮮語の媒介母音」（『ありあけ』11号、2012）、「麻雀ジャーゴン試論」（『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』16号、2009）、著書に『じゃんけんぽん ―入門初級韓国語教材―』（松尾勇・金善美と共著、同学社、2013）、『佳子のソウル留学から… ―中級韓国語教材―』（松尾勇・金善美と共著、同学社、2012）がある。

## 日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター（日文研）が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的とする催しです。
1987年の設立以来、月1回のペースで、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。


お問い合せ先
国際日本文化研究センター 研究協力課
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2
TEL: 075-335-2078
http://www.nichibun.ac.jp/ja/
日文研

京都府立総合社会福祉会館 **ハートピア京都**

【アクセス】
・京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車5番出口（地下鉄連絡通路にて直結）
・京都市バス、京都バス、JRバス「烏丸丸太町」バス停下車

## 第311回 日文研フォーラム 2017年6月13日（火） 18:30～20:30

講師：劉 雨珍 南開大学外国語学院（中国） 教授／日文研 外国人研究員
コメンテーター：劉 建輝 日文研 副所長／教授

International Research Center for Japanese Studies The 310th Nichibunken Forum